

まち歩きに役立つ！ 町家・町なみ豆知識

町家・町なみの基本的な用語を解説しています。まち歩きの時、地図を見ながら参照していただく役に立ちます。

「虫籠窓(むしこまご)」



その形状が虫籠(むしこご)に似ていることから名付けられたとも言われている。漆喰で塗り込まれているものが多く、その形状も四角のものもあれば、角が欠けている水風船(もっつぷり)のものもある。

「格子」



棧の板(かまこ)と縦横に組んだ格子(くもこ)で構成され、格子の間の広い、狭いなど、多くのデザインがある。建物内部への採光と通風を確保しつつ、外部からの進入と視界を制限できる効果がある。

「駒寄(こまよせ)」「矢来(やらい)」



町家に多く用いられている「格子」は、正面から顔を見つければ中が見えてしまうため、これを隠すための見止として使われている。

「卯建(うだつ)」「抽籠」



本来、障子からの光熱を省く目的でつくられるのだが、中には、装飾的な要素が強いものもあり、互のせだデザイン(卯建)うだつも見られる。

「箱筋(はこき)」



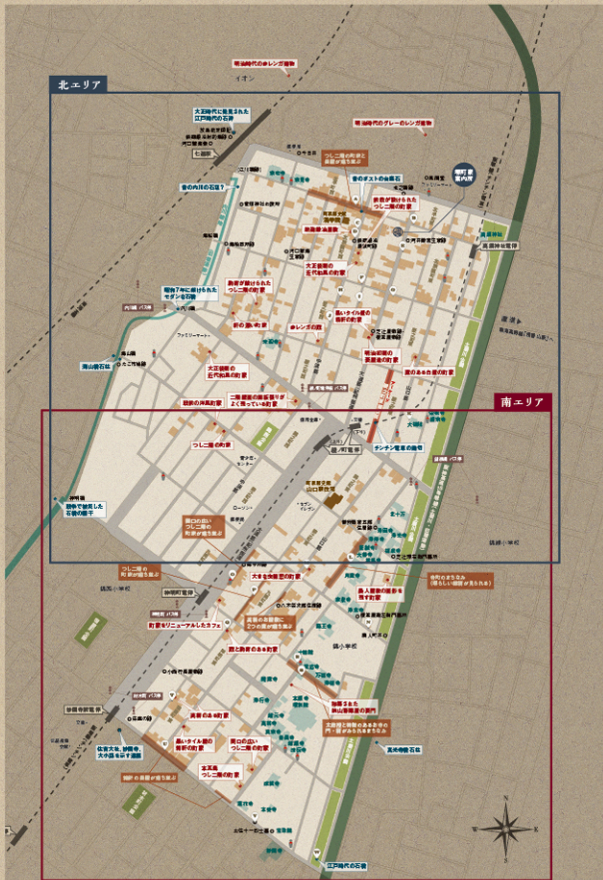
2階の軒下を箱状にし、防火のために耐火で覆ったもの。

「つし(厨子)二階」



主に江戸から明治にかけて建てられた古い様式で、中二階(もよう)にキッチンと呼ばれるキッチン。二階の天井が高く、二階が居住用として使われている。時代の流れで、漆喰が塗り込まれた虫籠窓が特徴で、主に屏風や物置が併設して利用されていた。

「籠二階(高二階)」



MACHINAMI WALKING MAP

町家・町なみ再生協議会

まち歩きを油断させない  
さかまち・井

堺環濠都市北部地区について

自由都市、自治都市として名高い中世の堺の町(中世の堺環濠都市)は、江戸時代初期の1615年(慶長20年・元和元年)、大坂夏の陣の際に、豊臣方の拠り所にもなり成瀬に得ました。そして、その後、堺は徳川幕府の高橋徳和となり、新たに三方に達(いむゆる)土原川)が隔られ、基盤目状の街路(短冊形の街路)も整備されて(元和の町割り)、新しい近世の堺環濠都市に生まれ変わりました。この近世の堺環濠都市は、その後、近代へ引き継がれて来ましたが、1945年(昭和20年)、第2次世界大戦時の堺大空襲のため、大部分が焼失しました。しかし、その北部地区は、幸運にも戦火を免れたため、現在も江戸時代から戦前にかけて建てられた町家などの貴重な歴史的建造物が多く残されています。

堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会とは  
この地区の江戸時代から続く貴重な歴史的町なみを保存・再生・活用するために設立された民間の団体で、堺市と協力しながら、「江戸時代の町割り」を活かした(まち)を広くまちなみを再建して活動しています。

このマップについて  
このマップは、町家や町なみを見て歩くための地図です。そのため普通の地図とは少し異なります。町家や町なみを愛しするためのユニークな視点を提供します。さあ、みなさん、一緒にまち歩きましょう！



